

第1章 総 則

(目的)

第1条 京都精華大学大学院（以下「本大学院」という。）は、学術の理論および応用を研究・教授し、その深奥を究めて文化の進展に寄与することを目的とする。

(自己評価等)

第2条 本大学院は、教育研究水準の向上を図り、本大学院の目的および社会的使命を達成するため、本大学院における教育研究活動等の状況について自ら点検および評価を行い、その結果を公表するものとする。

- 2 前項の点検および評価を行うため、委員会を設ける。
- 3 委員会に関する規程は、これを別に定める。
- 4 点検、評価の項目等については、別にこれを定める。
- 5 本大学院は、第1項の点検および評価の結果について、本大学の教職員以外の者による検証を行うものとする。

(研究科)

第3条 本大学院に次の研究科をおく。

芸 術 研 究 科
デザイン研究科
マンガ研究科
人文学研究科

(課程)

第4条 本大学院に、博士課程および修士課程をおく。

- 2 博士課程は、前期2年の課程（以下「博士前期課程」という。）および後期3年の課程（以下「博士後期課程」という。）に区分する。
- 3 博士前期課程は、修士課程として取り扱うものとする。
- 4 博士前期課程および修士課程は、広い視野にたつて精新な学識を修め、専攻分野における研究能力または高度の専門性を要する職業等に必要の高度の能力を養うものとする。
- 5 博士後期課程は、専攻分野について研究者として自立して研究活動を行い、またはその高度な専門的な業務に従事するに必要な研究能力およびその基礎となる豊かな学識を養うものとする。

(専攻および収容定員)

第5条 研究科の専攻ならびにその入学定員および収容定員は、別表第1のとおりとする。

(人材の育成に関する目的その他の教育研究上の目的)

第5条の2 本大学院の研究科・専攻の人材の育成に関する目的その他の教育研究上の目的は、次のとおりとする。

芸術研究科 芸術専攻 博士前期課程

専門領域にとらわれない多角的視点と柔軟な創造力を養い、芸術表現のさらなる探究を目的とし、新しい芸術文化の発信と高度な専門的スキルを有した人材の養成を目的とする。

芸術研究科 芸術専攻 博士後期課程

多種多様な芸術表現のジャンルを整理・融合させながら専門応用能力を養い、制作と理論との調和を軸に、高度に洗練された芸術表現手法と芸術理論の探究を目的とし、新しい芸術文化の発信と活性化に貢献できる人材の養成を目的とする。

デザイン研究科 デザイン専攻 修士課程

デザイン分野の社会動向に広い視野と見識を備え、デザイン受容者の潜在的ニーズの分析・研究を深め、実践的に社会に貢献できる高度な専門的スキルを有した人材の養成を目的とする。

デザイン研究科 建築専攻 修士課程

社会動向に広い視野と見識を持ち、建築分野において多様な側面から分析・研究を深め、実践的に社会に貢献できる高度な専門的スキルを有した人材の養成を目的とする。

マンガ研究科 マンガ専攻 博士前期課程

国際的にも注目されるマンガ・アニメーション分野において、体系的な学術研究を深め、次代を担う新しい文化の発信に貢献できる高度な専門的スキルを有した人材の養成を目的とする。

マンガ研究科 マンガ専攻 博士後期課程

国内外の様々な要請に対応可能なマンガ・アニメーション分野について、多角的視点から学術研究を行い、制作および理論に関する特に高度な能力を有した人材の育成を目的とする。

人文学研究科 人文学専攻 修士課程

人文諸科学を総合する学際的なアプローチにて、現代社会が直面する現実課題の探求を体系化し、実践的に社会に貢献できる高度な専門的スキルを有した人材の養成を目的とする。

(研究科委員会および博士後期課程委員会)

第6条 本大学院に研究科委員会および博士後期課程委員会をおく。

2 研究科委員会は、研究科の授業を担当する教授、准教授、講師および助教をもって組織し、研究科長がこれを招集し、その議長となる。

3 研究科の責任者を研究科長とする。ただし、学部長との兼任を妨げない。

4 博士後期課程委員会は、当該研究科博士後期課程の担当教員をもって組織し、研究科長がこれを招集し、その議長となる。

(研究科委員会および博士後期課程委員会の審議事項)

第7条 研究科委員会は、博士前期課程および修士課程に関し、また博士後期課程委員会は博士後期

課程に関し、学長が次に掲げる事項について決定を行うにあたり意見を述べるものとする。

- (1) 学生の入学（編入学・転入学を含む）、および課程の修了
- (2) 学位の授与
- (3) 前2号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、学長が研究科委員会および博士後期課程委員会の意見を聴くことが必要であると認めるもの

2 研究科委員会は、学長または研究科長がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、および学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

(入学検定料、入学金および授業料等)

第8条 入学検定料、入学金および授業料等の学費は、別表第2の通りとする。

- 2 前項に規定する既納の入学検定料、入学金および授業料等の学費は、原則として返還しない。
- 3 前項の規定にかかわらず、入学許可を得た者で、指定の期日までに入学手続の取り消しを願い出た者については、入学金またはこれに相当する金額を除く学費を返還する。
- 4 学費納入に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

第2章 学年・学期・休業日・修業年限等

(学年、学期、授業日数および休業日)

第9条 大学院の学年、学期、授業日数、休業日については、京都精華大学学則第6条より第8条までの規定を準用する。

(修業年限)

第10条 博士前期課程および修士課程の標準修業年限は、2年とする。

2 博士後期課程の標準修業年限は、3年とする。

(在学年限)

第11条 博士前期課程および修士課程の学生は、4年を超えて在学することができない。

- 2 博士後期課程の学生は、6年を超えて在学することができない。
- 3 研究科委員会が有益と認めるときは、他の大学院研究科等における修学期間を修業年限に算入することができる。ただし、他の大学院研究科等における修学期間については1年を超えて算入することはできない。

第3章 入学・休学・退学等

(入学の時期)

第12条 入学の時期は、学年の始めとする。

(入学資格)

第13条 博士前期課程および修士課程に入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する

者でなければならない。

- (1) 学校教育法第 83 条に定める大学を卒業した者
- (2) 学校教育法第 104 条第 4 項の規定により、学士の学位を授与された者
- (3) 外国において学校教育における 16 年の課程を修了した者
- (4) 文部科学大臣の指定した者
- (5) 大学に 3 年以上在学し、または外国において学校教育における 15 年の課程を修了し、本大学院において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者
- (6) 本大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、22 歳に達した者
- (7) その他本大学院において、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

2 博士後期課程に入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者でなければならない。

- (1) 修士の学位を有する者
- (2) 外国において修士の学位に相当する学位を授与された者
- (3) 文部科学大臣の指定した者
- (4) 本大学院において、個別の入学資格審査により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、24 歳に達した者
- (5) その他本大学院において、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者
- (6) 大学を卒業した後、大学、研究所等において 2 年以上研究に従事した者で、大学院において当該研究の成果等により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると本大学院が認めた者

(入学者の選考)

第 14 条 入学志願者に対しては、入学試験を行う。

2 入学試験に関し必要な事項は、別にこれを定める。

(入学許可等)

第 15 条 入学試験に合格した者は、学長が指定する期日までに所定の納付金を納入し、かつ必要書類を提出しなければならない。

2 学長は、前項の規定により所定の納付金を納入し、かつ必要書類を提出した者に対し、入学を許可する。

(再入学)

第 16 条 退学した者または除籍となった者が、保証人連署のうえ、所定の様式により再入学を願い出たときは、研究科委員会または博士後期課程委員会の議を経て、学長はこれを許可することがある。

2 再入学を願い出ることのできる期間は、退学の日または除籍の日より 2 年以内とする。

3 再入学の時期は学期の始めからとする。

4 再入学に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

(転入学)

第 17 条 他の大学院に 1 年以上在籍した後、本大学院の研究科に転入学しようとする者については、

選考のうえ、既に在学した大学院において履修した授業科目の内容と成績等を考慮し、学長は入学を許可することがある。

(休学)

第 18 条 学生が疾病その他の事由によって 3 月以上就学できないときは、保証人連署のうえ、所定の様式により願い出て、休学することができる。

- 2 休学の期間は 1 年以内とする。ただし、特別の理由がある場合は 1 年を限度として、休学期間の延長を認めることができる。
- 3 休学期間は通算して博士前期課程および修士課程にあつては 2 年、博士後期課程にあつては 3 年を超えることができない。
- 4 休学期間は、第 10 条および第 11 条に定める修業年限および在学年限に算入しない。
- 5 休学期間中の学費は、半期 10,000 円、通年 20,000 円とし、納入等に関する規定は第 8 条による。
- 6 休学に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

(復学)

第 19 条 休学者が復学しようとするときは、保証人連署のうえ、所定の様式により願い出て、学長の許可を得て復学することができる。

- 2 復学の時期は学期の始めからとする。
- 3 復学に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

(退学)

第 20 条 疾病、その他の事由によって退学または転学しようとする者は、保証人連署のうえ、所定の様式により願い出なければならない。

- 2 退学および転学に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。
- 3 懲戒による退学に関する規程は、第 37 条に定めるもののほか、別にこれを定める。

(除籍)

第 21 条 学長は、学生が次の各号のいずれかに該当するときは、研究科委員会または博士後期課程委員会の議を経て、学生を除籍する。

- (1) 第 11 条に規定する在学年限を超えた者
 - (2) 第 18 条第 2 項および第 3 項に規定する休学年限を超えた者
 - (3) 所定の授業料等学費の納付を怠り、その督促を受けてもこれを納入しない者
 - (4) 第 19 条に規定する復学手続きのない者
 - (5) 本大学院での就学の意思のない者
 - (6) 本人が死亡したとき
 - (7) その他、学長が相当の理由を認めたとき
- 2 除籍に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

第4章 授 業

(授業科目および単位数)

- 第22条 本大学院の芸術研究科において開設する授業科目および単位数は、別表第3-1に定める。
- 2 本大学院のデザイン研究科において開設する授業科目および単位数は、別表第3-2に定める。
 - 3 本大学院のマンガ研究科において開設する授業科目および単位数は、別表第3-3に定める。
 - 4 本大学院の人文学研究科において開設する授業科目および単位数は、別表第3-4に定める。

(学部開設科目等の履修)

- 第22条の2 研究科委員会は、教育研究上の必要に応じて、学生に授業科目を指定して、学部、本大学院の他研究科、他専攻および他課程が開設する授業科目を履修させることができる。

(単位の認定)

- 第23条 学長は、授業科目を履修した学生に対して、当該授業科目の試験および研究報告の成績を審査し、その結果に基づき、研究科委員会の議を経て、相当する数の単位を与える。

(他の大学院との交流)

- 第24条 本大学院は、教育上有益と認めるときは、他の大学院との協定に基づき、その大学院（以下「交流協定校」という。）との間に学生を交流し、学生に必要な授業科目を履修させ、または研究指導を受けさせることができる。
- 2 前項の規定に基づいて学生が履修した単位は、10単位を超えない範囲で、本大学院で履修したものとみなすことができる。
 - 3 交流協定校の認定、交流協定校における学生の履修した授業科目の単位の認定、その他、他の大学院との交流に関する重要事項については、研究科委員会の議を経て学長が決定する。
 - 4 本条第2項の規定は、外国の大学院において授業科目を履修した場合においても準用する。
 - 5 他の大学院との交流に関して実施上必要とされる具体的措置については、別にこれを定める。

(研究指導)

- 第25条 本大学院に在学する学生は、担当教員による研究指導を受けなければならない。
- 2 研究科委員会が教育上有益と認めるときは、学生は他の大学院または研究所等において必要な研究指導を受けることができる。ただし、当該研究指導を受ける期間は、博士前期課程および修士課程の学生にあつては1年を超えないものとする。

(入学前の既修得単位等の認定)

- 第26条 研究科委員会が教育上有益と認めるときは、学生が本大学院入学前に他大学院において履修した授業科目について修得した単位を本大学院で修得したものとみなすことができる。ただし、学部学生として履修した科目については認めない。
- 2 前項の規定により修得したものとみなし、博士前期課程および修士課程の修了要件である単位数に算入することのできる単位数は、第24条第2項に定めるものとは別に、10単位を超えないものとする。

第5章 課程の修了および学位

(博士前期課程および修士課程の修了)

- 第27条 博士前期課程および修士課程に2年以上在学し、修了の要件となる単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けたうえ、修士論文または修士作品についての研究の成果の審査および最終試験に合格した者に対し、研究科委員会の議を経て、学長が修了を認定する。
- 2 前項の審査および最終試験については、別にこれを定める。
 - 3 在学期間については、優れた研究業績をあげた者については、当該課程に1年以上在学すれば足りるものとする。

(博士後期課程の修了)

- 第27条の2 博士後期課程に3年以上在学し、修了の要件となる単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けたうえ、博士論文の審査および最終試験に合格した者に対し、博士後期課程委員会の議を経て、学長が修了を認定する。
- 2 前項の審査および最終試験については、別にこれを定める。
 - 3 在学期間については、優れた研究業績をあげた者については、博士前期課程に2年以上在学し、当該課程を修了した場合にあっては、博士後期課程に1年以上、前条第3項の規定による在学期間をもって修了した場合にあっては、博士課程に3年(当該在学期間を含む。)以上在学すれば足りるものとする。
 - 4 前項の規定にかかわらず、第13条第2項第2号から第4号までの規定により、大学院への入学資格に関し修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者で優れた研究業績をあげた者の在学期間については、博士後期課程に1年以上在学すれば足りるものとする。
 - 5 博士論文は、博士後期課程を満期退学した後、5年以内に提出するものとする。

(学位の授与)

- 第28条 学長は、博士前期課程および修士課程の修了を認定した者に対して、修士の学位を授与する。
- 2 学長は、博士後期課程の修了を認定した者に対して、博士の学位を授与する。
 - 3 博士の学位は、本大学院の博士後期課程を経ない者であっても、本大学院の行う博士論文の審査に合格し、かつ当該課程を修了した者と同等以上の学力を有することを確認した者に対しても授与することができる。
 - 4 修士および博士の学位の授与については、学長が定める。
 - 5 本大学院が授与する学位の種類および専攻分野の名称は、次の通りとする。

芸術研究科	博士前期課程	修士(芸術)
	博士後期課程	博士(芸術)
デザイン研究科	修士課程	修士(芸術)
マンガ研究科	博士前期課程	修士(芸術)
	博士後期課程	博士(芸術)
人文学研究科	修士課程	修士(人文学)
 - 6 学位に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

第6章 委託生・研究生・特別交流学生・科目等履修生および外国人留学生

(委託生)

第29条 本大学院において研修することについて、国・地方公共団体または他の教育機関から委託された者（外国人留学生を除く。）があるときは、本大学院における教授および研究に支障のない場合に限って、選考のうえ、研究科委員会の議を経て、委託生として学長が入学を許可することができる。

2 委託生の委託料は、別表第2の①に規定する一般学生の授業料相当額とする。

(研究生)

第30条 本大学院の専任教員のもとで研究しようとする者があるときは、研究科委員会の議を経て、学長がこれを許可することがある。

2 研究生の授業料等の学費は、別表第2の②に定めるところによる。

3 研究生に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

(特別交流学生)

第31条 第24条に規定する交流協定校の大学院学生が、特別交流学生として特定の授業科目の履修または研究指導を受けることについて、研究科委員会の議を経て、学長がこれを許可することがある。

2 特別交流学生に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

(科目等履修生)

第32条 本大学院以外の者で1または複数の授業科目を履修することを希望する者があるときは、本大学院における教育および研究に支障がなく、また、本大学院が指定する科目に限り、学長がこれを許可することがある。

2 履修を許可する授業科目の単位数は、1年度につき8単位以内とし、在学年限は1年以内とする。

3 科目等履修料等の納付金については、別表第2の③に定めるところによる。

4 科目等履修生に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

(外国人留学生)

第33条 勉学の目的を持った外国人で、第13条の要件を充足する者が、本大学院への入学を志願するときは、選考のうえ、学長が入学を許可することがある。

2 外国人留学生に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

(教育免許状の取得・種類)

第34条 中学校教諭1種免許状および高等学校教諭1種免許状授与の所要資格を有する者で、当該免許状同一教科に係る中学校教諭専修免許状および高等学校教諭専修免許状授与の所要資格を取得しようとする者は、教育職員免許法および教育職員免許法施行規則に定める所要の単位を修得しなければならない。

2 本大学院において当該所要資格を取得できる中学校教諭専修免許状および高等学校教諭専修免許状の免許教科の種類は、中学校教諭専修免許状（美術・社会）および高等学校教諭専修免許状（美術・工

芸・公民)とする。

(学芸員資格の取得)

第 35 条 博物館学芸員の資格を取得しようとする者は、博物館法および同法施行規則に定めるところにより、学部において開設する博物館学芸員に関する科目を履修し、その単位を修得しなければならない。

第 7 章 賞 罰

(表彰)

第 36 条 学長は、人物、学業ともに優秀な学生に対して、これを表彰する。

(懲戒)

第 37 条 学長は、本大学院の学則または規程に違反し、その他学生としての本分に反した者で、研究科委員会または博士後期課程委員会において懲戒を要すると認められたときは、訓告、停学または退学の処分をすることができる。

2 学生の懲戒に関する規程は、本条に定めるもののほか、別にこれを定める。

第 8 章 補 則

(補則)

第 38 条 この大学院学則の施行に関して必要な細則は、研究科委員会の議を経て学長が定める。

附 則

第1項 この学則は、平成 3 年 4 月 1 日より施行する。

第2項 この学則は、平成 4 年 4 月 1 日より施行する。

第3項 この学則は、平成 5 年 4 月 1 日より施行する。

第4項 この学則は、平成 6 年 4 月 1 日より施行する。

第5項 この学則は、平成 8 年 4 月 1 日より施行する。

第6項 この学則は、平成 12 年 4 月 1 日より施行する。

第7項 この学則は、平成 15 年 4 月 1 日より施行する。

第8項 この学則は、平成 16 年 4 月 1 日より施行する。

第9項 この学則は、平成 18 年 4 月 1 日より施行する。

第10項 この学則は、平成 19 年 4 月 1 日より施行する。

第11項 この学則は、平成 20 年 4 月 1 日より施行する。

ただし、第 18 条第 5 項に規定する休学期間中の学費は、平成 20 年 4 月 1 日より在籍学生に一斉適用する。

第12項 この学則は、平成 21 年 4 月 1 日より施行する。

第13項 この学則は、平成 22 年 4 月 1 日より施行する。

第14項 この学則は、平成 23 年 4 月 1 日より施行する。

第15項 この学則は、平成 24 年 4 月 1 日より施行する。

第16項 この学則は、平成 27 年 4 月 1 日より施行する。

別表第 1 (第 5 条関係)

研究科名	専攻	博士前期課程 および修士課程		博士後期課程	
		入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
芸術研究科	芸術専攻	20人	40人	5人	15人
デザイン研究科	デザイン専攻	10人	20人	—	—
	建築専攻	5人	10人	—	—
マンガ研究科	マンガ専攻	20人	40人	4人	12人
人文学研究科	人文学専攻	10人	20人	—	—
計		65人	130人	9人	27人

別表第 2 (第 8 条関係)

① 正規の学生の授業料等

1. 入学検定料

費目	金額
入学検定料	35,000円

2. 修了要件を「作品」とする者

(1) 一般学生

	前期	後期
入学金	200,000円	0円
授業料	525,000円	525,000円
合計	725,000円	525,000円

(2) 本学卒業生

	前期	後期
入学金	0円	0円
授業料	525,000円	525,000円
合計	525,000円	525,000円

卒業生とは、本学学部を卒業し、本学研究科（修士課程、博士前期課程）に入学した学生をいう。

3. 修了要件を「論文」とする者

(1) 一般学生

	前 期	後 期
入 学 金	200,000 円	0 円
授 業 料	375,000 円	375,000 円
合 計	575,000 円	375,000 円

(2) 本学卒業生

	前 期	後 期
入 学 金	0 円	0 円
授 業 料	375,000 円	375,000 円
合 計	375,000 円	375,000 円

卒業生とは、次の者をいう。

- a. 本学学部を卒業し、本学研究科（修士課程、博士前期課程）に入学した学生
- b. 本学研究科（修士課程、博士前期課程）を修了し、本学研究科博士後期課程に入学した学生
- c. 本学学部を卒業し、他大学研究科（修士課程、博士前期課程）を修了後、本学研究科博士後期課程に入学した学生

② 研究生学費

	前 期	後 期	年 額
作品制作を主とする場合	208,500 円	208,500 円	417,000 円
理論研究を主とする場合	158,500 円	158,500 円	317,000 円

京都精華大学大学院研究生学費算出基準

- (1) 研究生出願手数料＝大学院入学検定料×1/3
- (2) 研究生授業料＝（大学院入学金＋大学院授業料）×1/3
- (3) ただし、1,000 円未満は四捨五入とする。

③ 科目等履修料

登 録 料（1 年度につき）	15,000 円
履 修 料（1 単位につき）	15,000 円

別表第 3-1 (第 22 条関係)

芸術研究科

研究科	専攻	授業科目	単位数			備考	修了要件
			必修	選択	計		
芸術研究科 博士前期課程	芸術	【共通基盤科目】					
		表現特論		2	2		
		知的創造特論	2		2		
		プロジェクト企画演習		2	2		
		プロジェクトワーク演習 1		2	2	必修 2 単位を含め 6 単位以上	
		プロジェクトワーク演習 2		2	2		
		プレゼンテーション演習		2	2		
		学術論文演習 1		2	2		
		学術論文演習 2		2	2		
		原書講読 1		2	2		
	原書講読 2		2	2			
	【専門特講科目】						
	芸術理論特講	2		2	自研究科から 4 単位以上および他研究科から 2 単位以上、計 8 単位以上		
	表現領域特講 1	1	2	2			
	表現領域特講 2	2	2	2			
	表現領域特講 3	3	2	2			
表現領域特講 4	4	2	2				
【専門研究科目】							
芸術研究 1		4	4	必修 16 単位			
芸術研究 2		4	4				
芸術研究 3		4	4				
芸術研究 4		4	4				
芸術研究科 博士後期課程	芸術専攻	表現研究計画演習	2		2		14 単位必修および 博士論文
		表現総合研究 1	1	4	4		
		表現総合研究 2	2	4	4		
		表現総合研究 3	3	4	4		

別表第 3-2 (第 22 条関係)

デザイン研究科 デザイン専攻

研究科	専攻	授業科目	単位数			備考	修了要件
			必修	選択	計		
デザイン研究科 修士課程	デザイン専攻	【共通基盤科目】					
		表現特論		2	2		
		知的創造特論	2		2		
		プロジェクト企画演習		2	2		
		プロジェクトワーク演習 1		2	2	必修 2 単位を含め 6 単位以上	
		プロジェクトワーク演習 2		2	2		
		プレゼンテーション演習		2	2		
		学術論文演習 1		2	2		
		学術論文演習 2		2	2		
		原書講読 1		2	2		
		原書講読 2		2	2		
		【専門特講科目】					
		デザイン理論特講	2		2	自研究科から 4 単位以上および他研究科から 2 単位以上、計 8 単位以上	30 単位以上修得および修士論文 作品または修士論文
		創造領域特講 1		2	2		
	創造領域特講 2		2	2			
	創造領域特講 3		2	2			
	創造領域特講 4		2	2			
	【専門研究科目】						
	デザイン研究 1		4		4	必修 16 単位	
	デザイン研究 2		4		4		
デザイン研究 3		4		4			
デザイン研究 4		4		4			

デザイン研究科 建築専攻

研究科	専攻	授業科目	単位数			備考	修了要件
			必修	選択	計		
デザイン研究科 修士課程	建築専攻	【共通基盤科目】					
		表現特論		2	2		
		知的創造特論	2		2		
		プロジェクト企画演習		2	2		
		プロジェクトワーク演習 1		2	2	必修 2 単位を含め 6 単位以上	
		プロジェクトワーク演習 2		2	2		
		プレゼンテーション演習		2	2		
		学術論文演習 1		2	2		
		学術論文演習 2		2	2		
		原書講読 1		2	2		
		原書講読 2		2	2		
		【専門特講科目】					
		デザイン理論特講	2		2	自研究科から 4 単位以上および他研究科から 2 単位以上、計 8 単位以上	30 単位以上修得および修士作品または修士論文
	創造領域特講 1		2	2			
	創造領域特講 2		2	2			
	創造領域特講 3		2	2			
	創造領域特講 4		2	2			
	【専門研究科目】						
	建築研究 1	4		4	必修 16 単位		
	建築研究 2	4		4			
	建築研究 3	4		4			
建築研究 4	4		4				
建築設計特講		2	2				
先端建築技術特講		2	2				
建築家倫理特講		2	2				
建築構造演習		2	2				
建築設備演習		2	2				
建築設計監理演習		4	4				

別表第 3-3 (第 22 条関係)

マンガ研究科 マンガ専攻

研究科	専攻	授業科目	単位数			備考	修了要件
			必修	選択	計		
マンガ研究科 博士前期課程	マンガン	【共通基盤科目】					
		表現特論		2	2		
		知的創造特論	2		2		
		プロジェクト企画演習		2	2		
		プロジェクトワーク演習 1		2	2	必修 2 単位を含め 6 単位以上	
		プロジェクトワーク演習 2		2	2		
		プレゼンテーション演習		2	2		
		学術論文演習 1		2	2		
		学術論文演習 2		2	2		
		原書講読 1		2	2		
	原書講読 2		2	2			
	【専門特講科目】						
	マンガ理論特講	2		2	自研究科から 4 単位以上および他研究科から 2 単位以上、計 8 単位以上		
	マンガ領域特講 1		2	2			
	マンガ領域特講 2		2	2			
	マンガ領域特講 3		2	2			
マンガ領域特講 4		2	2				
【専門研究科目】							
マンガ研究 1		4		4	必修 16 単位		
マンガ研究 2		4		4			
マンガ研究 3		4		4			
マンガ研究 4		4		4			
マンガ研究科 博士後期課程	マンガ専攻	マンガ研究計画演習	2		2		14 単位必修および 博士論文
		マンガ総合研究 1		4	4		
		マンガ総合研究 2		4	4		
		マンガ総合研究 3		4	4		

別表第 3-4 (第 22 条関係)

人文学研究科

研究科	専攻	授業科目	単位数			備考	修了要件
			必修	選択	計		
人文学研究科 修士課程	人文学	【共通基盤科目】					
		表現特論		2	2		
		知的創造特論	2		2		
		プロジェクト企画演習		2	2		
		プロジェクトワーク演習 1		2	2	必修 2 単位を含め 6 単位以上	
		プロジェクトワーク演習 2		2	2		
		プレゼンテーション演習		2	2		
		学術論文演習 1		2	2		
		学術論文演習 2		2	2		
		原書講読 1		2	2		
	原書講読 2		2	2			
	【専門特講科目】						
	表象領域特講 1	1	2	2	自研究科から 4 単位以上および他研究科から 2 単位以上、計 8 単位以上		30 単位以上修得および修士論文
	表象領域特講 2	2	2	2			
	表象領域特講 3	3	2	2			
	表象領域特講 4	4	2	2			
	【専門研究科目】						
	人文学特殊講義 1	1	2	2	必修 8 単位を含め 16 単位以上		
	人文学特殊講義 2	2	2	2			
	人文学特殊講義 3	3	2	2			
	人文学特殊講義 4	4	2	2			
	人文学特殊講義 5	5	2	2			
	人文学特殊講義 6	6	2	2			
人文学合同演習	2		2				
人文学基礎演習	2		2				
人文学演習 1	1	2	2				
人文学演習 2	2	2	2				